



SK松本ジュニア合唱団
団長 芦田勝弘

ごあいさつ

本日は年末を迎え何かとお忙しい中「SK松本ジュニア合唱団2011クリスマスコンサート」にご来場頂きまして誠にありがとうございます。

当合唱団は1993年のSKF(サイトウキネンフェスティバル)が上演したオペラ「火刑台上のジャンヌ・ダルク」に出演した児童合唱団を母体に結成され、SKの文字を誇りに、地域に愛される合唱団を目指し活動を続け、18年の歴史を重ねるまでになりました。

今年も様々な活動に取り組んでまいりました。「第22回長野県少年少女合唱祭」への参加や「ふれあい看護ながのin 中信」での演奏、更には世界の要人が集まり松本市で開催された「国連軍縮会議」ではオープニングセレモニーでの演奏やイベントとして開催された「平和祈念コンサート」、FM長野の公開録音「愛こそはすべて」などにも出演することができました。こうした様々な体験こそが子ども達の感性を育み、音楽はもちろんですが生きる力となっていくものと信じています。これからもこうした活動を通して、地域に愛されながら人としても優しく・逞しく育つような合唱団を目指して参ります。

コンサートは合唱団創設15周年事業で訪問したザルツブルグの教会にも響いた天使の歌声のようなミサ曲からスタートです。まさに天使が降り立ったような素晴らしいハーモニーをお楽しみ下さい。第二ステージの「私たちにできること」は国連軍縮会議での演奏を記念して平和の歌をテーマにしています。国連軍縮会議で団員が朗読した「平和へのメッセージ」のように、平和への思いが多くの人に伝わればと思っています。

第三ステージでは昨年に続き演出家の菊池裕美子先生をお迎えしてアリスに取り組みました。「ALICE～心のカリヨンを鳴らす時～」はミュージカル・ファンタジーとしてアリスの不思議な世界を自分達の生活と重ねながらお楽しみください。

本日のコンサート開催にあたり、改めてご指導の先生方、長野県松本文化会館関係の皆様方、またご支援を頂いている多くの方々に感謝申し上げ、これからもSK松本ジュニア合唱団を温かく見守り、育てて頂くことをお願い申し上げます。ごあいさつと致します。本日のコンサートを充分にお楽しみ下さい。

困難を乗り越えて

3.11東日本大震災と福島第一原発事故による放射能汚染、6.30松本の地震が重なって、大袈裟かも知れませんが、クリスマスコンサートが開けるとは思えませんでした。困難を乗り越えて開かれたことに、まずは「おめでとうございます」

今回のステージに館長が注目する点は三つ。ひとつは福島で被災した詩人・和合亮一さんの「つぶてソング」。「あなたはどこに居ますか。あなたの心は風に吹かれていますか。あなたの心は壊れていませんか。あなたの心は行き場を失っていませんか」。子供たちはこの詩をどんな気持ちで歌うのでしょうか。指揮をする佐原玲子先生は「皆でなにができるか、考えながら歌いたい」

ふたつ目は平和への祈り。今年7月に松本市で国連軍縮会議が開かれました。そのイベントの平和祈念コンサートと軍縮会議開会式で「ありがとうございました」を歌ったと聞きました。各国語で感謝をつづただけの歌ですが、中1女子は「歌っている時に外国の人と目が合い、笑顔で楽しそうに聴いてくださった。(中略)涙を流している人もいました。歌の力のすごさを感じました」

この気持ちがコンサートの「地球星歌」や「広い世界へ」にどう反映されるのでしょうか。

三つ目はアリス。昨年と題名は同じですが、「内容的には上で、難しいテーマ」(佐原先生)。空想の世界に入り込んでなかなか抜け出せない若者を題材にしています。SKジュニアも歌っているから、皆元気と思ったら、大違い。アリスシンдрームから目覚めて社会復帰していく過程をうまく表現できるか。

「本当の歌を歌える子にしたい」。佐原さんの思いを子供たちがどう受け止めるか。クリスマスイブは真剣勝負の場でもあるんだと改めて思いました。



長野県松本文化会館
館長 恒川昌久